

養液栽培での夏秋どりトマト増収に向けた取組

(渡島農業改良普及センター)

背景

【北斗市の概要】

○小規模経営が多く（1経営体あたり耕地面積 約9ha）、水稻と高収益な園芸との複合経営が多い。ねぎ、トマト、きゅうり、ホウレンソウは全道有数の産地

○トマトは、464経営体のうち152経営体が作付けしており、地域の農業産出額トップの重要品目となっている

【地域の課題】

○ハウスの周年利用、連作により土壌病害虫が増加傾向。土壌の養分蓄積、塩基バランスの悪化も著しく、トマトの生産性が低下しているほ場が増えている

普及活動内容

○現地実証ほを設置し、夏秋どりトマト増収に向けた養液栽培システム「ういずOne」の技術確立を図った

(対象：生産組織役員3名)

- ①生育・環境（温度、日射量）に応じた栽培管理
- ②栽植本数と窒素施肥量の最適化



生育調査



給液装置

○試験結果や栽培データを基に栽培管理のポイントを整理し、栽培マニュアルを作成

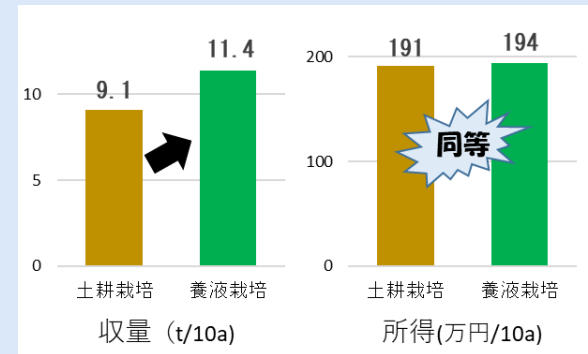
ういずOneトマト栽培のPOINTマニュアル

項目	内容	ポイント
生育調査	生育調査の目的は、生育状況を確認し、栽培管理のポイントを整理することです。	生育調査は、定期的に行い、生育状況を把握することです。
給液装置	給液装置は、養液栽培システムの一部であり、適切な給液を行うことが重要です。	給液装置の点検とメンテナンスを定期的に行い、正常な動作を確認することです。
栽培管理	栽培管理は、生育環境を適切に制御し、トマトの生育を促進することです。	温度、湿度、日射量などの生育環境を適切に制御し、トマトの生育を促進することです。
収穫	収穫は、トマトの生育状況を適切に判断し、適切な時期に行うことが重要です。	収穫は、トマトの生育状況を適切に判断し、適切な時期に行うことが重要です。

普及の成果

【具体的な成果】

○増収と施肥量の削減により、土耕栽培並みの所得を達成



【成果のポイント】

○栽培管理技術をまとめ、導入コストや費用対効果を明らかにし、養液栽培が地域における所得確保の手段として有用であることを示した

○今後は、日射比例による自動かん水装置を導入し、さらなる生産性向上と所得確保を図る